

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	株式会社マリーン5 清水屋 4階 株式会社宮脇書店 清水屋店
実習期間	平成 30年 2月 8日 ~ 平成 30年 2月 12日
学生氏名	五十嵐彬恵
実習プログラム	<p>10時30分始業、16時終業(12時から13時昼休憩)</p> <p>(午前)</p> <p>コミックハラマキと呼ばれる、コミックのビニール掛け。専用のシートをコミック本体の胴部分に巻き付ける作業。</p> <p>ハラマキ終了後、クリンリネスと呼ばれる、棚上部のホコリや本表面のホコリ取りと乱れを整理する作業に移る。(実習期間後半は、コミックハラマキと並行してレジ業務・返品業務を行う。)</p> <p>(午後)</p> <p>クリンリネスの続きを行う。終了次第、レジ業務、返品業務を行う。</p> <p>(その他)</p> <p>本の陳列場所の移動</p> <p>返品業務とは、商品の入れ替えをした際、見切りをつけた商品や売れ残ってしまった本を取次への返品にまわすこと。</p> <p>段ボールに入った書籍や雑誌をレジカウンター内に運び行う。</p> <p>専用ページにて書籍・雑誌のコードを読み取り、冊数を入力後その内容をコピーし、エクセルに貼り付ける。これらの過程が済んだ書籍雑誌を再び段ボールに入れて閉じ、返品処理票を箱側面に張り終了。</p>
学び・気づき (300字程度)	<p>実習期間中に実践した、「メモを取る」「質問をする」は大変効果を感じられるものであった。コンピュータを用いる作業が主であったため、メモを取ることで、手順をより覚えやすく、頭の中を整理しながら落ち着いて取り組むことができたと考える。「質問をする」ことにおいても、より物事の正しい理解や自身の状況を把握することにも繋がる。実習の初日の作業の中で質問をせず取り組んだ結果、ミスをしてしまった。ただ指示を聞くだけでは十分な理解につながらないのだと感じた場面であった。さらに質問をすることで指示された内容を自身の中で整理し、理解することができ、それによりミスを減らし、より効率的に進めることができると考えられる。</p>

<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>卸業者への返品業務において、エクセルを使用する場面があった。セルの大きさが不揃いになってしまい、とても見辛いものとなってしまった。その際に、指導をしてくださっていた方がそっとセルの大きさを調節していた。操作の理解が不十分であったと気づくとともに「気遣い」も十分ではなかったのだと認識できた。私はその作業だけをすればよい、終わればよいといった考えのみで行っており、「誰かが見る、誰もが分かりやすく」といった視点から物事を見ることが欠けていたのだと知ることができた。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>若者からご年配の方までのニーズに叶った豊富な品揃えが特徴的である。さらに、店頭が無い本であっても取り寄せ、仕事や家事で忙しい方のために本の置き置きなどの心遣いはとても嬉しいものである。書籍のPOPも魅力を引き立て、読んでみたくなってしまう内容である。加えて、棚を回って見ていけば、現在話題の本は何であるのかがすぐにわかる。テレビや情報サイトを見る機会が少ない方であっても、話題に上がっている情報が手に入る。地元と密接に関わった商品展開、イベント開催などを通して、活字文化を守り続けているのである。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	<div data-bbox="391 878 869 1142" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="391 1160 502 1191">図 1-店内</p> <div data-bbox="391 1258 869 1523" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="391 1541 614 1572">図 2-カウンター内</p>